

# 1 ヘルパーから「口腔ケアは自分たちが するので必要はない」と言われた

## 最初にすべきこと

歯科医療従事者がおこなう口腔ケアは、一般的な日常的口腔ケアと異なることを説明する

## 1 手順

患者さん、その家族の意向を確認する



患者さんまたはその家族に日常的な口腔ケアとの違いを説明する



### ◆こんな例がありました

訪問した歯科衛生士が、「口腔ケアにずっと来られているようだけど、何をしているのか分からない。口腔ケアだけなら私たちがするのでわざわざ歯科衛生士さんが来るほどのことはないのではないか」と患者さんのヘルパーから言われた。

聞いてみると、患者さんがヘルパーに「歯科衛生士だけが来て、歯ブラシをして帰るが、何をしているのか分からない」と言っていたという。

## 2 レクチャー

- ・歯科衛生士が単独でおこなえる訪問歯科衛生指導は、歯科医師が訪問診療をおこなった日から1ヵ月、居宅療養管理指導の場合は3ヵ月ある。
- ・いずれの場合も日常的な単なる口腔ケアの場合には算定できないことになっている。
- ・このケースでは、ヘルパーでもおこなえる口腔ケアをわざわざ歯科衛生士がおこなっていると思われていたようだ。

## 3 アドバイス

- ・単なる日常的な口腔ケアとの違いを理解してもらうために、実地記録を見せながら、どのような状態にあるのか説明するとよい。
- ・医学的な見地から、どの部位をどのような目的で口腔ケアしているのかを説明するために分かりやすい口腔ケアの一覧表を用いるとよい。

## 4 その後、こうする

- ・毎回、実施した内容を文書にして、実施したことと、日常の介護に必要な助言を残しておく。

# 5 感染症の患者さんだった

## 最初にすべきこと

基本的には診療室でおこなっていることに準じておこなえばよい

### 1 手順

手洗いを十分におこなう

グローブ、マスク、フェイスシールド、  
ガウン (PPE 製品) を着用する

血液などの体液が付着したものは、  
持ち帰り感染性医療廃棄物として処理する

針刺し予防を徹底する

流水で洗った後に、  
速乾性の擦り込み式手指消毒液を用いる



### ◆こんな例がありました

(治療後に) 訪問した施設の職員から、患者さんはC型肝炎だったが大丈夫かと言われた。

### 2 レクチャー

- ・患者さん本人や家族、介護者への問診で感染症のチェックは必須であるが、原則的には外来患者さんと同様の対応を心がければよい。

### 3 アドバイス

- ・あまり神経質にならず、診療室でおこなっていることに準じておこなうが、あらゆる感染の可能性を前提として扱う。
- ・また医療器具や器材を媒介にして他の患者さんを感染させないように注意しなければならない。

### 4 その後、こうする

- ・一か所で複数名の治療をおこなう場合には、患者さんごとに十分な消毒とグローブの交換をおこない、器材・器具については使い捨てのものを使用する。
- ・感染している患者さんの治療は、一番最終におこなうようにする。

# 3 誤嚥・誤飲トラブル 1

(リーマーを飲み込ませた)

## 最初にすべきこと

患者さんに動かないように指示し、X線撮影をし、リーマーの位置を確認する

## 1 手順

患者さんに動かないように指示する

同行しているスタッフに動かないように介助させる

患者さんの姿勢を誤飲しにくい体位にする

咽頭部が開いている場合はガーゼなどをおく

口腔内からの摘出を試みる

口腔内にもものを入れるときは持ちかえないようにする

X線撮影をし、リーマーの位置を確認する

同席している家族などに説明をする

口腔内からの摘出ができない場合には、耳鼻科へ連絡を取り、救急搬送を手配する

気管内にある場合には、耳鼻科医に摘出を依頼する

飲み込んでいる場合には、自然排出を待つ

介護者に便の確認を毎日おこなってもらい、便の中から出てきたことを確認する

# 1 言葉の暴力を受けた

## 最初にすべきこと

依頼があって診療に来たことを伝える

## 1 手順

暴力的な言動があったら、不愉快であることを伝える

医療人として往診の依頼があったから伺ったことを堂々と伝える

痛みや不具合を放置すると全身的な障害を引き起こすことを伝える

きりがよいところまで治療をおこない撤収する



## ◆こんな例がありました

ケアマネからの依頼を受け、訪問し治療をおこなっているとき、患者の息子が帰ってくるなり「なんで歯医者に来てるんだ。そこまでして金儲けしたいのか」と激しい口調でいきなりなじり始めた。

依頼があったから治療に伺ったと言ったのだが、「金がかかるんだから、もう来なくてもいい、帰れ」と騒ぎ出し、延々と侮辱的な言葉を受け続けた。

仕方なく応急処置だけおこない、一部負担金も受け取れずに帰った。

## 2 レクチャー

- ・家族の中に問題を抱える家庭の場合、「先が長くないのだから治療は必要ない」と言い張る家族がいる場合がある。また異常なくらい興奮して暴言を吐く場合もある。
- ・家族の中の葛藤に巻き込まれないように距離をおくことも必要である。

## 3 アドバイス

- ・痛みや不具合を抱えている患者さんを放置することはできないので、きりがよいところまで治療をおこなう。
- ・暴力的な言動がある場合には、本人に不快であることを伝える。
- ・また、信頼関係の結べないお宅には行けないことも伝える。

## 4 その後、こうする

- ・担当のケアマネに連絡を取り事情を伝える。